

風以方位爲名

谷風又多

〔書言字考節用集〕乾坤泰風又云北風東風南風谷風東風〔同乾坤〕不周風也廣莫

風カゼ選註カゼ涼風リョウフウ朔風ソクフウ北風ホクフウ凱風カイフウ飄風ヒョウフウ東風トウフウ〔同乾坤〕不周風也ヒカタク廣莫キョウモク

〔物類稱呼〕天地風かせ略中 西國にても南風をはへと云、東南の風ををまやばへと云、北國にて

は東風をあゆの風といふ、西北の風をよりけと云、北風をひとつあゆと云、東北の風をぢあゆと

云、丑の方より吹風をまあゆと云、南風をぢたりと云、江戸にては東南の風をいなさといふ、東

北の風をならいと云、といふなり、西北の風をはがちと云、東風を下總ごちといふ、未申の方よ

り吹風を富士南と云、

〔塵袋〕一大風ト云フハ家フキャブリナドスル風歟、又別ノ心アル歟、毛詩ニ箋曰、西風謂之大風

ト云々、ニシカゼヲモ大風ト云ベキニコソ、タニ風ト云ヘドモ、必ズ谷ニフク風ニモカギラズ、東

風ヲバ谷風ト云フ、毛詩ニ習々谷風注云、習々和舒之貌、東風謂之谷風、陰陽和則谷風至、源順ガ鶯

ノ詠ニ、コホリダニトマラヌ春ノ谷風ニト云ヘルコノ心也、春ハ東ヨリ來レバ、東風ハハルカゼ

也、秋ハ西ヨリ來ル故ニ、西風ハ秋ニカタドル、

〔日本釋名〕東風 此は氷也、ちはちらすなり、春のはじめにこほりを吹ちらす風也、とくるを

ちると云、又とくの反字はつ也、つとちと通ず、こほりとくなり、

日方 東風の久しくふくを云、東の方より吹也、

南風 南風はあた、かにして蒸氣也、故によりづのさかな飯などはやくすると云意、

西北風 雨なし也、めを略す、あなしふけば、雨ふらざる物也、

〔倭訓栞〕古編九 此ち 東風をいふ、ちは疾風をはやちとよめる類也、伊勢家集に、こちてふ風とよ

めり、琉球は東もこちといへり、中國の船人、三月の風をへばりこちといふ、十月の風をほしの入

り、

り、